

WISH教育の成果発表

子どもたちのやる気引き出す

京大大学院准教授 木原さんが講演

日向

子どもたちのやる気を引き出すWISH(ウィッシュ)教育の提唱者で、平成26年度から日向市富島中学校でモデル授業を実践している京都大学大学院准教授・木原雅子さん(62)は、子ども財団理事長の講演会が12日、同市中央公民館であり、その成果を発表した。同財団主催により広く県北の子供たちのために生かしてもらいたいとの思いから企画した。

講演タイトル「日向市ではじ」とは、平成26年度から始まった。木原さんと同中の取り組み「素直な挑戦」にある「新たな挑戦」直直の勉強は嫌い。そんな生徒たちを変えたい。きつかけは黒木広充校長からの相談だった。



生徒たちの変化をうれしそうに語る木原さん(左)と高本養護教諭

しかし木原さんは、いじめ、不登校、学級崩壊などの課題を抱える全国の学校から助けを求められる多忙の身。教材の開発に要する時間や経費の都合から、その中でも深刻な学校を優先し、1校1回の訪問を基本にした。

「もちろん1校1回のつもりだった」と木原さん。しかし、その後、今年3月までに6回訪問することになる。先生たちの生徒たちに対する熱心さ、学校を変えようとする熱心さに負けず、1校1回の訪問を基本にした。覚悟を決めたという。

「どう生きるか」

自主性促し自尊心高める

WISH教育とは、子供の自主性を促し自尊心を高める教育のこと。知識や技術の獲得より、どう生きるか、どういかに主眼を置いているという。木原さんはまず「自分探しの授業」を展開し、生徒たち自身に夢や目標、勉強の必要性を考えてもらい「自分のため、将来のためであること」を気付かせていった。

「先生たちの関わりで子供たちは大きく変わった。私ほのきつかけをつくっただけ」と木原さん。集まった教育関係者約250人に「どの子供も限らない可能性を持っている。だからこそその能力に気付いていない、発揮できていない子供もいる。それは私たち大人の本気にかかっている。子供たちの笑顔のために、それぞれでできることで子供たちを支えていただきたい」と呼び掛けた。

木原さんは、今年度も継続して同中でモデル授業を実践していく考え。また、県北の他の学校にも広めたいとし、現在、可能性を模索中という。

対応している状況だった。それでも、黒木校長は諦めなかった。話だけでも聞いてほしい「力を貸してほしい」――2回、3回と連絡を取るうち、平成26年9月、ようやく同中を訪問してもらえることになったという。

途中、同中の高本恵子養護教諭も登壇し、生徒たちの変化を一括に報告。「先生たちへの不満を言わなくなり、逆に『小生懸命に教えてくれた』とうれしそうに話してくれるようになったり、無視を『した』しないうで止まっていた友達との関係も、相手を思いやり認めてあげられるようになってきた」という。

「先生たちの関わりで子供たちは大きく変わった。私ほのきつかけをつくっただけ」と木原さん。集まった教育関係者約250人に「どの子供も限らない可能性を持っている。だからこそその能力に気付いていない、発揮できていない子供もいる。それは私たち大人の本気にかかっている。子供たちの笑顔のために、それぞれでできることで子供たちを支えていただきたい」と呼び掛けた。

木原さんは、今年度も継続して同中でモデル授業を実践していく考え。また、県北の他の学校にも広めたいとし、現在、可能性を模索中という。